

令和4年度 施策評価シート《令和2年度・令和3年度評価》

評価日	令和4年10月31日	No.	5	-	1
-----	------------	-----	---	---	---

基 本 事 項	施策名	第1節 生涯学習による人づくり・まちづくり	所管部署名	教育部			
	まちづくり目標	第5章 生きがい・学び・伸びゆくまちづくり（教育文化部門）	評価責任者	中村 詠子			
	施策小項目	1 生涯学習への支援	5 学習施設の整備充実	関連部署名(1)	教育部生涯学習課		
		2 市民参加による事業の推進	6 人材の育成・活用	関連部署名(2)			
		3 学習内容の充実	7 団体の育成・支援	関連部署名(3)			
4 学習情報の提供			関連部署名(4)				
施策の目的	市民が生涯のあらゆる時期において、学習する機会が得られることをめざす。		役割分担	市民の役割	公民館等を活用した主体的な生涯学習の取り組みに努める。		
施策に関する個別計画				行政の役割	市民が利用しやすい生涯学習施設を提供し、各種講座等を開催し、人材の育成に努める。		

区分	指標名 (上段)	単位	設定時の値	実績値① (年度)	実績値② (目標年度)	達成状況	最終目標値 (目標年度)
	指標の性質 (下段)						
指	生涯学習活動に対する満足度	%	52.4	59.4	66.2	C	70.0
	増加することが良いとされる指標		H28	H30	R1		R3
標							

施策の評価	評価軸①	評価方法		評価点
	指標達成状況	指標の達成状況を、 A=4点(達成度100%以上)、B=3点(達成度80~99%)、 C=2点(達成度50~79%)、D=1点(達成度49%以下)とする。	合計点は 2点 評価点 = 平均点 = 指標達成状況合計点 / 指標の数	
施策の進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調 (100%以上の達成度) <input type="checkbox"/> おおむね順調 (80%以上の達成度) <input checked="" type="checkbox"/> やや順調でない (50~80%程度の達成度) <input type="checkbox"/> 順調でない (50%未満の達成度)	評価の理由・説明	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、社会教育団体の活動が困難となり、学習情報の提供、及び学習施設の整備充実を図るに留まった。	2点
市民ニーズの反映度	<input type="checkbox"/> 反映できた <input type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できた <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できなかった <input type="checkbox"/> 反映できなかった		生涯学習課が所管する各施設において、貸館の定員制限、歌唱や調理活動の制約など、利用者にご協力いただきながら感染拡大防止を優先とした施設運用となったため。	2点
施策に対する事務事業の構成	<input type="checkbox"/> 妥当であった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当であった <input type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当でなかった <input type="checkbox"/> 妥当でなかった		生涯学習情報の提供、生涯学習活動の支援、活動施設の整備の3事業の構成については、妥当であった。 ※構成する事務事業については裏面を参照	3点
施策に関する現状と課題	コロナ禍にあって、社会教育活動が自粛されていく中、生涯学習情報の整理と学習施設等の環境整備に取り組んだ。 生涯学習への支援に関しては、活動再開に向けた市民ニーズを把握していく必要がある。 人材の育成・活用に関しては、人材バンクや活動内容の周知方法を工夫し、新たな活動につなげるよう努めなければならない。 団体育成・支援に関しては、社会教育関係団体の支援を継続する必要がある。			
総合評価	事務事業構成 成果指標達成度 施策進捗度 市民ニーズ反映度			2点
	施策評価 レーダーチャート			評価軸①~④の評価点の平均点

	貢献 順位	事務事業 番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性 (今後の方針)
				成果指標名	単位	R3目標値	R3実績値	
構成	1	803305	社会教育推進事業（公民館費）	1 主催事業の満足度	%	85.0	93.0	現状のまま継続
	2	803105	社会教育推進事業（社会教育総務費）	1 社会教育委員の活動	%	90.0	95.0	現状のまま継続
	3	803103	人材育成活用事業	1 人材バンク登録者活用率	%	-	-	現状のまま継続
	4	803109	市民交流センターおあしす等管理事業	1 おあしす利用件数	件	6,000	6,114	現状のまま継続
	5	803301	中央公民館管理事業	1 施設利用率	%	30.0	36.0	現状のまま継続
	6	803302	平沼地区公民館管理事業	1 施設利用率	%	20.0	19.5	現状のまま継続
	7	803304	美南地区公民館管理事業	1 施設利用率	%	40.0	38.5	現状のまま継続
	8	803303	東部地区公民館管理事業	1 施設利用率	%	20.0	9.3	現状のまま継続
	9	803401	地区センター施設管理事業	1 施設利用者満足度	%	95.0	96.0	現状のまま継続
	10	803104	学習情報提供事業	2 全市民に対するまんまるよやく利用割合	%	0.8	0.8	現状のまま継続
	11	803306	公民館運営事業	1 サークル公表団体数	%	55.0	47.8	現状のまま継続

特記事項
R2市民意識調査から調査項目ではなくなったため、最終調査年度による評価とした。

今後の展開
生涯学習活動を行う団体等の活動再開を支援するとともに、生涯学習活動を活性化するため、転入者などの新たな参加者の発掘をねらいとした取り組みの実施と施設の適切な管理・整備を図っていく。

令和4年度 施策評価シート 《令和2年度・令和3年度評価》

評価日		令和4年10月31日		No. 5 - 2		
基本事項	施策名	第2節 豊かな人間性を培う学校教育の充実	所管部署名	教育部		
	まちづくり目標	第5章 生きがい・学び・伸びゆくまちづくり (教育文化部門)	評価責任者	中村 詠子		
	施策小項目	1 確かな学力の向上	5 進学機会の確保	関連部署名(1)	教育部学校教育課	
		2 教員の指導力の充実	6 地域と歩む学校	関連部署名(2)	教育部教育総務課	
		3 健やかな心と身体の成長		関連部署名(3)		
4 学校施設と教育環境の整備			関連部署名(4)			
施策の目的	・「家族を 郷土を 愛し 志を立て 凜として生きてゆく」ことができる吉川の児童生徒を育成するために、教職員の資質の向上、学校施設の整備、学校給食の充実、家庭・地域との連携をめざす。		役割分担	市民の役割 学校を核として、家庭と地域が一体となり、豊かな心、学力、体力の向上に努め、生きる力を養う。		
施策に関する個別計画				行政の役割 児童・生徒の学力、豊かな心、体力の向上のために、教職員が教育課程や生徒指導等の実践力の向上に資するため教職員の研修の充実を図る。		

区分	指標名 (上段)		単位	設定時の値	実績値① (年度)	実績値② (目標年度)	達成状況	最終目標値 (目標年度)
	指標の性質 (下段)							
①	全国学力・学習状況調査における算数Aの正答率 (小学生)		%	75.3	-	70.0	D	79.3
	増加することが良いとされる指標			H27	R2	R3		R3
②	全国学力・学習状況調査における数学Aの平均正答率 (中学生)		%	55.5	-	56.0	D	63.5
	増加することが良いとされる指標			H27	R2	R3		R3
③	「将来の夢や目標を持っていますか」の項目の、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と考える児童の割合 (小学生)		%	86.6	-	81.4	D	92
	増加することが良いとされる指標			H27	R2	R3		R3

施策の評価	評価軸 ①	評価方法		評価点
	指標達成状況	指標の達成状況を、 A=4点(達成度100%以上)、B=3点(達成度80~99%)、 C=2点(達成度50~79%)、D=1点(達成度49%以下)とする。	合計点は 3点 評価点 = 平均点 = 指標達成状況合計点 / 指標の数	
施策の進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調 (100%以上の達成度) <input type="checkbox"/> おおむね順調 (80%以上の達成度) <input checked="" type="checkbox"/> やや順調でない (50~80%程度の達成度) <input type="checkbox"/> 順調でない (50%未満の達成度)	評価の理由・説明	令和元年から全国学力・学習状況調査の問題構成が変更され、算数A、数学Aという問題がなくなり、算数ではA,Bが合わさり算数となり、数学も同様な編成となった。この影響で平均が大きく変動し、単純に設定当時の指標との比較が不可能となった。	2点
市民ニーズの反映度	<input type="checkbox"/> 反映できた <input type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できた <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できなかった <input type="checkbox"/> 反映できなかった		目標値の達成ができていないこともあり市民ニーズの反映は十分ではないと考える。また、令和2年度は新型コロナウイルスの影響もあり、全国的に調査が実施されなかった。	2点
施策に対する事務事業の構成	<input type="checkbox"/> 妥当であった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば妥当であった <input type="checkbox"/> どちらかといえば妥当でなかった <input type="checkbox"/> 妥当でなかった		学力の向上は、一つの事業の結果で単純に評価できず、多くの教育活動を推進したことによる総合的な成果と考える。新たに加わったICT教育推進事業などは着実に実践されつつある。 ※構成する事務事業については裏面を参照	3点
総合評価	施策に関する現状と課題			2点
評価	令和元年より、全国学力・学習状況調査の出題が変更となり、単純に設定当時の指標との比較ができなくなった。また、令和2年度は新型コロナウイルスの影響もあり、全国的に調査が実施されなかった。加えて「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目については設定時の指標に比べて大幅な数値の減少が確認できた。		施策評価 レーダーチャート	評価軸 ①~④の 評価点の 平均点

構 成 す る 事 務 事 業	貢献 順位	事務事業 番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性 (今後の方針)
				成果指標名	単位	R3目標値	R3実績値	
	1	801203	学校施設整備事業（小学校）	1 学校からの報告に対し現地確認した率	%	80.0	96.4	現状のまま継続
	2	801204	学校施設整備事業（中学校）	1 学校からの報告に対し現地確認した率	%	80.0	100.0	現状のまま継続
	3	801201	学校施設修繕事業（小学校）	1 修繕件数	件	55	52	手段を改善
	4	801202	学校施設修繕事業（中学校）	1 修繕件数	件	25	18	手段を改善
	5	801104	教育機器整備事業（小学校）	1 児童用パソコン整備率	%	100.0	100.9	現状のまま継続
	6	801105	教育機器整備事業（中学校）	1 生徒用パソコン整備率	%	100.0	102.4	現状のまま継続
	7	801102	就学援助事業（小学校）	1 認定率	%	7.0	7.0	現状のまま継続
	8	801103	就学援助事業（中学校）	1 認定率	%	9.0	8.7	現状のまま継続
	9	801112	特別支援教育就学奨励費補助事業（小学校）	1 補助率	%	85.0	84.3	現状のまま継続
	10	801113	特別支援教育就学奨励費補助事業（中学校）	1 補助率	%	96.0	91.7	現状のまま継続
	11	801301	学校給食充実事業	1 会計年度任用職員(配膳員)勤務日数	日	194	189	現状のまま継続
	12	801302	給食食材購入事業	1 小学校において給食がおいしいと回答した率	%	89.8	96.4	現状のまま継続
	13	801303	学校給食センター管理事業	1 給食残菜率	%	8.5	8.2	現状のまま継続
	14	801304	学校給食センター整備運営事業	1 学校給食を提供できなかった回数	日	0	0	現状のまま継続
	15	801117	教育資金利子補給事業	1 補助決定率	%	100.0	100.0	現状のまま継続
	16	801108	施設管理事業（小学校）	1 事故件数	件	0	0	現状のまま継続
	17	801109	施設管理事業（中学校）	1 事故件数	件	0.0	0.0	現状のまま継続
	18	801110	学校運営事業（小学校）	2 図書購入の執行率	%	100.0	99.0	現状のまま継続
	19	801111	学校運営事業（中学校）	1 消耗品費の執行率	%	100.0	98.0	現状のまま継続
	20	801114	教材備品整備事業（小学校）	1 予算執行率	%	100.0	97.3	現状のまま継続
	21	801115	教材備品整備事業（中学校）	1 予算執行率	%	100.0	97.4	現状のまま継続
	22	802110	少人数指導推進事業	1 少人数指導員一人当たりの勤務日数	人	206	192	現状のまま継続
	23	802109	特別支援教育充実事業	1 特別支援員一人当たりの平均勤務日数	日	206	183	現状のまま継続
	24	802107	特色ある教育推進事業	1 特色ある教育を実践した小中学校	校	12	12	現状のまま継続
	25	802106	教育研究会支援事業	1 研修会・作品展・発表会の開催	回	53	52	現状のまま継続
	26	802112	教育内容研究事業	1 事業成果発表学校数	校	2	2	現状のまま継続
	27	802111	学校図書充実事業	1 学校図書館司書一人当たり勤務日数	日	95	114	現状のまま継続
	28	802102	外国語教育推進事業	1 語学指導者総勤務日数	日	1,030	1,030	現状のまま継続
	29	802201	I C T教育推進事業	1 学習支援ソフトの活用回数	回	30,000	28,800	現状のまま継続
	30	802104	教職員研修事業	1 人権教育実践資料集評価	点	8.0	8.0	現状のまま継続
	31	802308	生徒指導事業	1 市内小中学校問題行動等件数	件	300	856	現状のまま継続
	32	802114	健康診断事業	1 児童生徒（就学予定児童含）健康診断受診率	%	100.0	89.5	現状のまま継続
	33	802116	災害共済給付事業	1 災害共済給付制度加入率	%	100.0	99.8	現状のまま継続
	34	802103	教育指導事業	1 学校評議員会開催回数	回	60	45	現状のまま継続
	35	802113	教育内容充実事業	1 中学校運動部外部指導者平均活動日数	日	30	30	現状のまま継続
	36	802105	教育指導負担事業	1 指導主事会研修会への参加状況	回	2	2	現状のまま継続
	37	802108	教育研究負担事業	1 研修会等への参加人数	人	29	30	現状のまま継続
	38	801116	体育大会派遣補助事業	1 派遣回数	回	4	4	現状のまま継続
	39	802115	学校保健事業	1 プール水質検査結果 基準達成率	%	100.0	100.0	現状のまま継続
	40	802202	教科書購入事業（小学校）	1 教科書給与人数	人	4,636	4,496	現状のまま継続
	41	802203	教科書購入事業（中学校）	1 教科書給与人数	人	2,271	2,337	現状のまま継続
	42	801305	給食食材放射能検査事業	1 簡易検査機器検出限界値を超えた検体数	検体	-	-	廃止・休止

特記事項
概ね目標に近い実績値を示していると考えられる。しかし、市内小中学校の問題行動件数は、目標値を大幅に上回る件数となっている。コロナによる影響の有無ははっきりと確認できるわけでないが、命と人権に配慮した教育を着実に推進し、児童生徒のよりよい成長を育みたい。

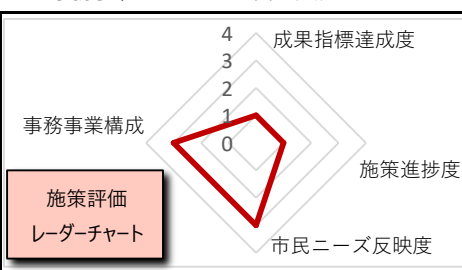
今後の展開
令和3年よりICT教育推進事業を推進し、教職員や児童生徒、そして、保護者も対象にしてデジタルシティズンシップを育む教育を展開している。既存の学習支援ソフトの活用の充実とともに、授業における効果的なICT活用についても研究が進みつつある。令和3年からスタートした児童生徒プレゼンテーション大会も令和4年で2回目を迎え、実施方法や内容にも洗練されつつある。また、本市の強みでもある特別支援教育についても支援員の配置を含めて充実した取組を進められた。この点については、管理職を含めた先生方の評価も高い。今後も吉川市教育大綱の実現に向けて、各事務事業の確実な実施やICT活用の充実を図り、非認知能力の育成を進めていく。

令和4年度 施策評価シート《令和2年度・令和3年度評価》

評価日		令和4年10月31日		No. 5 - 3		
基 本 事 項	施策名	第3節 青少年健全育成の充実	所管部署名	教育部		
	まちづくり目標	第5章 生きがい・学び・伸びゆくまちづくり (教育文化部門)	評価責任者	中村 詠子		
	施策小項目	1 健全育成活動の充実		関連部署名(1)	教育部学校教育課	
		2 教育相談活動の充実		関連部署名(2)		
		3 非行防止活動の充実		関連部署名(3)		
4 いじめや不登校の早期対応・解消			関連部署名(4)			
施策の目的	次の世代を担う青少年が心身ともに健やかに成長し、自立した心豊かな社会人となることをめざす		役割分担	市民の役割	地域ぐるみの健全育成やPTAによる地域の青少年の健全な育成活動に努める。	
施策に関する個別計画						行政の役割

区分	指標名 (上段)		単位	設定時の値	実績値① (年度)	実績値② (目標年度)	達成状況	最終目標値 (目標年度)
	指標の性質 (下段)							
①	市内不登校児童生徒率 (小学生)		%	0.35	0.57	0.77	D	0.2
	減少することが良いとされる指標			H27	R2	R3		R3
②	市内不登校児童生徒率 (中学生)		%	2.23	4.02	4.12	D	2.0
	減少することが良いとされる指標			H27	R2	R3		R3
③	「規律ある態度」⑤あいさつの項目において達成率80%以上の学年数 (県学力・学習調査)		学年	5	3	3	D	9
	増加することが良いとされる指標			H27	R2	R3		R3

施策の評価	評価軸①	評価方法		評価点
	指標達成状況	指標の達成状況を、 A=4点(達成度100%以上)、B=3点(達成度80~99%)、 C=2点(達成度50~79%)、D=1点(達成度49%以下)とする。	合計点は 3点 評価点 = 平均点 = 指標達成状況合計点 / 指標の数	
施策の進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調 (100%以上の達成度) <input type="checkbox"/> おおむね順調 (80%以上の達成度) <input type="checkbox"/> やや順調でない (50~80%程度の達成度) <input checked="" type="checkbox"/> 順調でない (50%未満の達成度)	評価理由説明 不登校児童生徒の数は、増加傾向にあり、目標達成は困難な状況である。不登校児童生徒の背景は、複雑・多様化しているため、個々に応じた丁寧な対応を行っているが、不登校解消にはつながっていない。 教育相談を通じて、保護者や子どもたちの相談を受けている。そのなかで、市民が求めているものを把握し、学校相談員が子どもと学校の橋渡しをしたり、少年センターが学校や関係機関と連携を図りながら問題解決に努めている。 学校相談員や教育相談員が子どもたちや保護者の問題に対し、早期対応・早期解決を図ることで学校生活がスムーズに行えるようになり、不登校の早期対応・早期解消につながるができることから妥当である。健全育成活動や非行防止活動についても地域における子育て支援という観点から妥当である。 ※構成する事務事業については裏面を参照	1点	
市民ニーズの反映度	<input type="checkbox"/> 反映できた <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できた <input type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できなかった <input type="checkbox"/> 反映できなかった		3点	
施策に対する事務事業の構成	<input type="checkbox"/> 妥当であった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当であった <input type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当でなかった <input type="checkbox"/> 妥当でなかった		3点	
評価	施策に関する現状と課題 不登校児童生徒数は年度によって異なるものの、増加傾向にあるといえる。不登校の理由もさまざまであり、専門的なスキルが求められるようなものも少なくない。本人の問題だけでなく家庭の問題もかかわってくることから、学校だけでなく関係機関と連携を図りながら、支援をしていくことが必要である。		総合評価 2点 評価軸①~④の評価点の平均点	



貢献 順位	事務事業 番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性 (今後の方針)		
			成果指標名	単位	R3目標値	R3実績値			
構 成 す る 事 務 事 業	1	802301	教育相談事業	1	教育支援センターへ通室することになった人数	人	25	26	現状のまま継続
	2	802302	教育支援センター事業	1	市内不登校児童生徒の教育支援センター通室率	%	20.0	15.2	現状のまま継続
	3	802305	学校相談事業	1	相談員の解決改善率	%	80.0	71.1	現状のまま継続
	4	802303	健全育成活動事業	2	青少年健全育成大会参加者の満足度	%	95.0	-	現状のまま継続
	5	802304	非行防止活動事業	1	補導員による声かけ件数	回	80	26	現状のまま継続

特記事項
引きこもり傾向の児童生徒に対し、大学生が家庭訪問をするアウトリーチ事業を実施している。毎年、10名程度の利用があり、家庭から少年センターへの通室につながったり、進学につながったりと大きな成果を上げている。利用した生徒からは、この事業があったから自信を持てるようになった、勉強がわかるようになったとの声もあり、年の近い大学生が訪問することで、子どもたちとのコミュニケーションが図られ、本人の生活リズムが整ったり、外出するきっかけを作ることができたと考えられる。

今後の展開
子どもに関するさまざまな問題の解決に向け、学校相談員やSC,SSWなどの相談員を設置し、市民が相談しやすい体制を図ってきた。また、教育支援センターについても、社会的自立を目指し指導を行っている。今後についても、引き続き、関係機関との連携を強め、複雑・多様化する子どもたちの問題の解決に向けて取り組んでいく。

令和4年度 施策評価シート《令和2年度・令和3年度評価》

評価日		令和4年10月31日		No. 5 - 4		
基本事項	施策名	第4節 幼児教育の充実	所管部署名	教育部		
	まちづくり目標	第5章 生きがい・学び・伸びゆくまちづくり（教育文化部門）	評価責任者	中村 詠子		
	施策小項目	1 幼児教育の支援		関連部署名(1)	教育部学校教育課	
		2 保育所・幼稚園・小学校の連携		関連部署名(2)	こども福祉部保育幼稚園課	
				関連部署名(3)		
			関連部署名(4)			
施策の目的	・小学校就学前の子どもたちが生活や学習の基礎を身に付けられることをめざす。		役割分担	市民の役割	健全な幼児の育成に努める。	
施策に関する個別計画	第2期吉川市子ども・子育て支援事業計画(令和2年度～令和6年度)				行政の役割	幼児の健やかな成長に資する良好な環境整備と保護者の経済的負担を軽減するための支援を行う。

区分	指標名 (上段)		単位	設定時の値	実績値① (年度)	実績値② (目標年度)	達成状況	最終目標値 (目標年度)
	指標の性質 (下段)							
①	30日以上(累計)欠席(傷病を除く)をした小学校1年生の人数		人	1	0	1	D	0
	減少することが良いとされる指標			H27	R2	R3		R3
②	年度当初において3歳以上の未就学児に対する幼稚園へ入園している児童の割合		%	66.49	58.91	57.65	D	69
	増加することが良いとされる指標			H27	R2	R3		R3

施策の評価	評価軸		評価方法	評価点
	指標達成状況	①	指標の達成状況を、 A=4点(達成度100%以上)、B=3点(達成度80~99%)、 C=2点(達成度50~79%)、D=1点(達成度49%以下)とする。	合計点は 2点 評価点 = 平均点 = 指標達成状況合計点 / 指標の数
施策の進捗状況	②	<input type="checkbox"/> 順調 (100%以上の達成度) <input type="checkbox"/> おおむね順調 (80%以上の達成度) <input checked="" type="checkbox"/> やや順調でない (50~80%程度の達成度) <input type="checkbox"/> 順調でない (50%未満の達成度)	評価理由・説明 不登校児童生徒については、増加の傾向にある。児童生徒一人一人に寄り添い丁寧な教育相談及び生徒指導の強化が求められる。学校には、不登校児童生徒家庭及び関係機関との緊密な連携を指示している。	2点
市民ニーズの反映度	③	<input type="checkbox"/> 反映できた <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できた <input type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できなかった <input type="checkbox"/> 反映できなかった	小学校、幼稚園、保育所等が連携を図ることで安心して小学校生活をスタートできることは、市民ニーズを反映している取り組みと考える。	3点
施策に対する事務事業の構成	④	<input type="checkbox"/> 妥当であった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当であった <input type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当でなかった <input type="checkbox"/> 妥当でなかった	小学校就学前の連携は生徒指導や特別支援教育の充実を図る上でも重要となる。こうした幼保小の連携を小中一貫教育につなげ、切れ目のない支援・指導の充実を図りたい。 ※構成する事務事業については裏面を参照	3点
施策に関する現状と課題				総合評価
吉川市保幼小連絡協議会を開催し、小学校と幼稚園、保育所等の情報交換が図れるようにした。これにより児童が円滑に小学校生活に移行できるようにしている。新型コロナウイルスの影響により、相互体験活動が縮小された時期もあったが、紙面による連携等も含めて可能な方法を模索しながら実践を積み重ねた。幼保小の連携を小中一貫教育に結び付け、教育大綱の実現を目指した指導・支援を推進する。				2点
				評価軸①~④の評価点の平均点

	貢献 順位	事務事業 番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性 (今後の方針)
				成果指標名	単位	R3目標値	R3実績値	
構 成 す る 事 務 事 業	1	802101	幼児教育事業	1 情報交換等回数	回	2	3	現状のまま継続

特記事項 幼児教育事業については、未就学児童の滑らかな小学校との接続に向けても、重要な事業と考える。しかし、不登校の人数を指標にすることについては今後検討が必要になるものとする。この指標に頼りすぎると取組の状況と指標の評価が合致しない状況になりやすいものとする。

今後の展開 幼保小の連携は、今後も継続していく必要がある。アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの充実を図り、非認知能力を育成し、吉川市教育大綱実現のための礎を築いていく。また、小中一貫教育を見据えた連携を意識して、義務教育終了の15歳にどのような生徒になっているのかを思い描いた連携にする必要がある。

令和4年度 施策評価シート《令和2年度・令和3年度評価》

評価日		令和4年10月31日		No. 5 - 5		
基 本 事 項	施策名	第5節 家庭・地域・学校の連携		所管部署名	教育部	
	まちづくり目標	第5章 生きがい・学び・伸びゆくまちづくり（教育文化部門）		評価責任者	中村 詠子	
	施策小項目	1	家庭教育学級の充実	関連部署名(1)	教育部生涯学習課	
		2	保護者への支援	関連部署名(2)		
		3	地域の教育力の活用	関連部署名(3)		
施策の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の中で、子どもが社会で生活する力が身につくことをめざす。 ・子育て家庭を地域で支えることをめざす。 		役割分担	市民の役割	家庭の役割を見つめ直し、子どもに社会で必要となる基本的な力を身につけさせることに努める。	
施策に関する個別計画				行政の役割	家庭・地域・学校を繋げ、地域で子どもを育てる環境を作る。	

区分	指標名 (上段)		単位	設定時の値	実績値① (年度)	実績値② (目標年度)	達成状況	最終目標値 (目標年度)
	指標の性質 (下段)							
①	家庭教育学級への参加率 (未就学)		%	38.4	0.0	0.0	D	50
	増加することが良いとされる指標			H27	R2	R3		R3
②	家庭教育学級への参加率 (小中学校)		%	32.5	0.0	4.2	D	50
	増加することが良いとされる指標			H27	R2	R3		R3
③	地域寺子屋事業の実施団体数		団体	6	0	0	D	9
	増加することが良いとされる指標			H27	R2	R3		R3

評価軸		評価方法	評価点
評価軸① 指標達成状況	指標の達成状況を、 A=4点(達成度100%以上)、B=3点(達成度80~99%)、 C=2点(達成度50~79%)、D=1点(達成度49%以下)とする。	合計点は 3点 評価点 = 平均点 = 指標達成状況合計点 / 指標の数	1点
評価軸② 施策の進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調 (100%以上の達成度) <input type="checkbox"/> おおむね順調 (80%以上の達成度) <input type="checkbox"/> やや順調でない (50~80%程度の達成度) <input checked="" type="checkbox"/> 順調でない (50%未満の達成度)	理由・説明 令和2年度は、感染防止対策が手探り状態であり、ワクチン接種も高齢者から優先的に行われたことから、児童を対象とした事業の実施が困難であった。令和3年度においても一部の再開に止まった。	1点
評価軸③ 市民ニーズの反映度	<input type="checkbox"/> 反映できた <input type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できた <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できなかった <input type="checkbox"/> 反映できなかった	理由・説明 事業再開に向けた説明会を実施し、オンラインなどによる事業実施などを紹介したが、再開は一部に止まった。	2点
評価軸④ 施策に対する事務事業の構成	<input type="checkbox"/> 妥当であった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当であった <input type="checkbox"/> どちらかと言えば妥当でなかった <input type="checkbox"/> 妥当でなかった	理由・説明 家庭・地域における生涯学習活動に直結する事業であるが故にコロナ禍の影響が大きかった。各校のPTAによる家庭教育学級についても学校が舞台となっており、課題はあるが事業構成としては妥当である。 ※構成する事務事業については裏面を参照	3点
施策に関する現状と課題			総合評価 2点
①家庭教育学級への参加率は、令和3年に小中学校の一部で再開できたものの、保育所や幼稚園では保護者が集まる機会自体が制限されており、実施がままならなかった。 ②目標指標である地域寺子屋事業の実施団体数については、2年間、実施団体がなかった。夏休みなどの長期休暇以外でも週末などに寺子屋活動を実施できないか検討した団体もあったが、感染拡大の不安から実施に至らなかった。		施策評価 レーダーチャート	評価軸①~④の評価点の平均点

貢献 順位	事務事業 番号	事 務 事 業 名	成果指標				事業の方向性 (今後の方針)
			成果指標名	単位	R3目標値	R3実績値	
1	803101	家庭教育推進事業	1 家庭教育学級実施率	%	10.0	8.6	現状のまま継続
2	803102	子ども体験活動事業	1 体験活動参加率	%	10.0	8.5	現状のまま継続
3	803111	放課後子ども教室事業	1 登録児童の割合	%	30.0	23.3	現状のまま継続

特記事項
 コロナ禍において、実施主体を各地域の実行委員会等とする事業の再開は難しかった。

今後の展開
 家庭教育学級については、小中学校の一部でオンラインを活用した事業の実施などにより活動を再開したところもあり、その手法などについて家庭教育学級の説明会を開催して周知し、活動団体を増やしていく。
 地域寺子屋については、地域の子どもの居場所づくりがテーマであり、コロナ禍の影響で自治会などの地域活動が通常通りできない状況の中、再開には時間がかかると思われる。通常の地域活動ができるようになった際、地域寺子屋も通常に行われるよう実施団体への呼びかけを継続していく。

令和4年度 施策評価シート《令和2年度・令和3年度評価》

評価日	令和4年10月31日	No.	5 - 6
-----	------------	-----	-------

基 本 事 項	施策名	第6節 多彩で個性ある文化の創造と伝承	所管部署名	教育部	
	まちづくり目標	第5章 生きがい・学び・伸びゆくまちづくり（教育文化部門）	評価責任者	中村 詠子	
	施策小項目	1 文化財の保護・保存	5 施設の整備充実	関連部署名(1)	教育部生涯学習課
		2 歴史資料の収集・調査・保存・活用		関連部署名(2)	
		3 文化財愛護活動の推進		関連部署名(3)	
4 芸術文化活動への支援			関連部署名(4)		
施策の目的	市民の自主的な芸術文化活動を通して地域に根ざした文化の振興と、郷土の歴史や文化が広く伝承されることをめざす。		役割 分割 分担	市民 の 役割	
施策に関する個別計画					行政 の 役割

区分	指標名 (上段)		単位	設定時の値	実績値① (年度)	実績値② (目標年度)	達成状況	最終目標値 (目標年度)
	指標の性質 (下段)							
①	芸術文化に触れ合う機会の満足度		%	37.6	47.5	55.4	A	50
	増加することが良いとされる指標			H28	R2	R3		R3

施策 の 評 価	評価軸①	評価方法		評価点
	指標達成状況	指標の達成状況を、 A=4点(達成度100%以上)、B=3点(達成度80~99%)、 C=2点(達成度50~79%)、D=1点(達成度49%以下)とする。	合計点は 4点 評価点 = 平均点 = 指標達成状況合計点 / 指標の数	
評価軸② 施策の 進捗状況	<input type="checkbox"/> 順調 (100%以上の達成度) <input checked="" type="checkbox"/> おおむね順調 (80%以上の達成度) <input type="checkbox"/> やや順調でない (50~80%程度の達成度) <input type="checkbox"/> 順調でない (50%未満の達成度)	評 価 の 理 由 ・ 説 明	予定していた事業が中止や延期を余儀なくされている点については順調と言えないが、指標としている満足度が目標値を達成している状況を鑑み、おおむね順調とした。	3点
評価軸③ 市民ニーズ の反映度	<input type="checkbox"/> 反映できた <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できた <input type="checkbox"/> どちらかといえば、反映できなかった <input type="checkbox"/> 反映できなかった		新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、市民文化祭など対面での催しが開催できず、市民ニーズを把握する機会が減ってしまった。	3点
評価軸④ 施策に対する 事務事業の構成	<input type="checkbox"/> 妥当であった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば妥当であった <input type="checkbox"/> どちらかといえば妥当でなかった <input type="checkbox"/> 妥当でなかった		コロナ禍の影響は、これまで培われてきた文化の継承にも及んでおり、文化芸術の振興を多方面から捉えた事業構成は妥当である。 ※構成する事務事業については裏面を参照	3点
評価	施策に関する現状と課題		総合評価	3点
	平成31年2月に「文化芸術を総合政策として推進するための基本的な方針」を策定し、文化芸術をコミュニティ、国際交流、福祉、健康、観光、教育など多面的に活用することで地域課題の解決に繋げてきた。彩の国さいたま芸術劇場からNPO法人埼玉情報センターとの共催による新たな演劇プロジェクトの展開、在宅による文化芸術活動の受け皿となった「文藝よしかわ」の刊行及びプロの演奏家による「生音コンサート」と合わせて実施する市内小学校でのアクティビティなど、コロナ禍において事業を継続・発展させていくため、これまでの手法に固執せずに実施していく必要がある。		成果指標達成度 市民ニーズ反映度 事務事業構成 施策進捗度	評価軸 ①~④の 評価点の 平均点

貢献 順位	事務事業 番号	事務事業名	成果指標				事業の方向性 (今後の方針)	
			成果指標名	単位	R3目標値	R3実績値		
構 成	1	803110	文化芸術振興事業（公民館費）	1 演劇公演の満足度	%	90.0	-	他の事業に統合
	2	803107	文化芸術振興事業（社会教育総務費）	1 全市民に対する市民文化祭入場者の割合	%	4.0	-	現状のまま継続
	3	803201	文化財保護事業	2 指定文化財の総数	件	44	44	現状のまま継続
	4	803204	市史編さん事業	1 市史・市史関係刊行物・資料の発行	冊	2	3	現状のまま継続
	5	803205	史料保存活用事業	1 収集した歴史資料の数量	点	150	147	現状のまま継続
	6	803202	文化財愛護活動支援事業	1 講座、見学会の延べ参加者数	人	50	50	現状のまま継続
	7	803203	郷土資料館管理事業	1 来館者数	人	220	175	現状のまま継続
	8	101319	吉川美南駅前施設整備検討事業	1 施設整備検討の進捗状況	%	30.0	60.0	現状のまま継続
す る 事 務 事 業								

特記事項
 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から対面による事業が中止または延期を余儀なくされた。

今後の展開
 文化芸術基本条例の施行により、基本理念に基づいて文化芸術施策を展開するとともに、着実に推進していくための基本計画を策定し、これまで総合政策として実施してきた文化芸術活用事業の整理とさらなる活用を図ることで、「文化芸術に触れ合う機会の満足度」の向上に取り組んでいく。